

地方が直面する様々に問題に、真っ向から立ち向かおうとする小さな町の挑戦——
5カ年計画の後半期を迎えた「美波ふるさと総合戦略」は、今や地方創生のホットワード「美波町モデル」として全国から注目を集めるようになりました。

ひとりひとりが自分事として、住民総参加で進めることを提唱した「美波ふるさと総合戦略」の取り組み、美波町ならではの地方創生を紹介していきます。

美波町が地方自治法70周年記念総務大臣表彰を受賞!

平成29年11月20日、天皇皇后両陛下、内閣総理大臣など列席のもと、東京国際フォーラムにて地方自治法施行70周年記念式典が行われました。

地方自治法とは、地方行政の仕組みや手続きなどの基本となり、私たちの暮らしに欠かせない、非常に身近な法律です。

記念式典では地方自治の意義や重要性、また一層の発展・伸展を目指すことが再確認され、同時に全国124の市町村(特別区を含む)への総務大臣表彰も行われました。

今回の受賞は、「美波ふるさと総合戦略」の取り組みに対してのものです。

「自らの創意工夫により、優れた施策を実施し、地方自治の充実発展に寄与した」として大きく評価されました。



昨年12月26日、徳島県庁にて表彰伝達式が行われ、影治町長が出席しました。

若者に大人気のプロジェクトが山河内に誕生!

「耕作放棄地や空き家が目立つようになってきた地区をどうにか活性化したいと構想を練っていた」と語るのは発案者の春田裕計さん。

地区内外の住民に協力を呼びかけ、山河内地区の柚子などを栽培をしていた土地・55,000㎡を開拓。ログハウスやジップラインなどを整備し、立ち上げたのが「椿谷自然体験プロジェクト」です。

2017年2月に開催した林業体験イベント「まさかのまさかりイベント」を発端に、同5月から美波町の内発型産業振興及び地域活性化事業の支援制度を活用した組織として本格的に活動を開始。

現在は美波の自然を満喫できる四季折々の田舎体験やドローン操縦体験などのワークショップを定期的に行い、県内各地から高校生や大学生、留学生ら、アウトドア好きの若者が次々と集う、賑やかで楽しい空間になっています。

ワークショップの開催予定などはフェイスブックで紹介しているそうです。



木々の間に張ったロープを滑車で渡るジップラインは、小学生にも大人気!

